

■基本方針

日本ペイントホールディングスグループは、色彩・景観の創出と素材・資源の保護という社業を通じ、環境美化・環境保全をはじめとしたレスポンシブル・ケア活動*に対して積極的に貢献することを理念として、自らの使命と責任を自覚し、社員一人一人、グループ全組織が連携して取り組み、世界人類、地域社会、顧客との相互信頼に基づいた関係づくりに寄与する活動をめざす。

*環境保全、保安防災、労働安全衛生、物流安全、化学品・製品安全、コミュニケーションの実施項目

そのために、全ての事業活動において以下を定める。

- 1) 全ての事業活動において、地球環境の保全と生態系の保護を配慮し、エネルギー・資源の節約に努める。
- 2) 環境に負荷の少ない商品開発と、負荷低減のための技術開発を進めるとともに、商品の開発から廃棄に至るすべての段階で環境・安全・健康に関する配慮を行う。
- 3) 操業にともなう環境への負荷の低減や保安防災に努めながら地域住民、従業員の安全と健康の確保を図る。

■活動方針

- 1) レスポンシブル・ケア活動の狙いは次のとおりとする。
 - ① 国際的動向を踏まえたレスポンシブル・ケアマネジメントシステムの確立
 - ② 化学物質の総合管理によるリスク低減
 - ③ 事業活動に関わる環境・安全・健康の確保
 - ④ 国際活動および化学品取引の環境・安全の確保
 - ⑤ 社会からの信頼向上
- 2) 日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会に参加して、協調・協力しながら、毎年、計画・実施・報告・見直しのマネジメントサイクルを回す。
- 3) 国内外関係法令および当社が同意したその他の要求事項を遵守するとともに、国内外の動向を配慮し、自己決定・自己責任の原則に基づき、科学的事実および科学的方法論による化学物質の総合管理を継続的に改善実行する。
- 4) 基本方針および活動方針は、グループ全従業員に周知させるとともに、社会の理解を得るように公開する。

レスポンシブル・ケア
組織体制

○ 化学物質が環境に及ぼす影響や安全性を把握、管理することは、塗料メーカーである当社の重要な責務と考え、2010年度から環境だけでなく労働安全衛生や化学品製品安全の領域まで適用範囲を拡大したマネジメントシステムを再構築し、「レスポンシブル・ケア(RC)」活動に取り組んでいます。本来業務軸の活動により社員の自主自立を促し、有効かつ効率的な運用を行うとともに、PDCAサイクルをまわし、より良いシステムへと継続的に改善していきます。

ISO14001
外部審査

○ 当社は、2013年2月に変更した外部審査機関のSGSジャパン株式会社による「維持審査時変更審査」を2014年12月に受審しました。
審査チームは、組織が規格要求事項に沿ったマネジメントシステムを構築し、維持していること、また、組織のマネジメントシステムが、適用範囲の製品もしくはサービスにおける組織が同意した要求事項および組織の方針、目的を達成する能力があると結論づけられ、維持審査承認の判定を受けました。

2014年度内部
RC監査

○ 2014年度は従来のシステム監査、本来業務化などを継続して監査するとともに、レスポンシブル・ケア委員会決定事項で特に化審法*1、安衛法*2、毒劇法*3等の重要法令や労働安全、操業安全、海外輸出などの実施状況を重点監査項目に加え広く活動の監査を実施しました。
その結果、目的、目標および実施計画、運用管理などについて指摘事項がありましたが、年度内に指摘事項の改善および確認フォローが完了しました。

※1 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律
※2 労働安全衛生法
※3 毒物及び劇物取締法

- ・審査期間:2014年8月29日から10月22日
- ・審査日数:のべ12日
- ・審査対象サイト:10サイト
(本社、千葉工場、栃木工場、愛知工場、岡山工場、広島工場、東京事業所、寝屋川事業所、大阪事業所、エーエスペイント)
- ・参加審査員数:のべ292名
- ・審査結果:中欠点0件(前年1件)、
軽欠点19件(前年34件)、
コメント198件(前年194件)、
良いコメント45件(前年40件)



レスポンシブル・ケア方針と
レスポンシブル・ケア
マネジメントシステム



レスポンシブル・ケア活動とは、化学物質を取り扱う事業者が、開発から廃棄にいたる全ライフサイクルにおいて、環境・安全・健康面(環境保護・保安防災・労働安全衛生・化学品安全)の対策を実行し、改善を図っていく自主管理活動です。

また、日本ペイントは、1995年の日本レスポンシブル・ケア協議会設立時から会員として活動を続け、レスポンシブル・ケア活動の塗料版であるコーティング・ケアにも参加しています。

レスポンシブル・ケア方針に基づいた
レスポンシブル・ケアマネジメント体系のもと、
Plan(計画)・Do(実施)・Check(評価)・
Action(見直し)の活動を行う、
継続的な改善につなげていきます。

RC組織体制(2014年度)

